



竜北中図書館通信



令和2年11月（文責：本田）

☆秋の野山は色鮮やか

秋は収穫の季節です。稲が実り、豆や芋がとれて、さまざまな木の実がなります。朝夕の気温差が大きくなってくると、秋の野山は赤や黄色にそまった木々に鮮やかに彩られます。

秋の漢字（読みがな） 『四季のことは絵事典（PHP 研究所）荒尾禎秀／監修』より

- ① 案山子（かかし）・・・わらなどで作った人形に服を着せ、人に見せかけ、田畑を鳥獣から守る。
- ② 赤蜻蛉（あかとんぼ）・・・よく目にする赤いトンボは、『アキアカネ』といいます。
- ③ 鱗雲（うろこぐも）・・・秋の空によく見られる白い小さな雲のかたまり。『鱗雲』ともいいます。
- ④ 団栗（どんぐり）・・・どんぐりと呼ばれるのは、クヌギ、カシ、ナラなどの実です。
- ⑤ 秋桜（コスモス）・・・メキシコ原産。日本には明治時代にもたらされました。



☆定期テストで結果を出す50の習慣『清水式・定期テストで結果を出す50の習慣清水章弘・著』

～好きな教科しか、やる気が起きない人は・・・～

テストが近くなると、きれいな教科もやらないといけません。どうやって乗り越えればいいのかというと、きれいな教科を好きな教科ではさむこと。『好き・きれい・好き』のサンドイッチにするのです。最初に好きな教科を長く取ってしまうと、きれいな教科に戻りにくくなりますからね。（一部抜粋） 『清水式・定期テストで結果を出す50の習慣清水章弘・著（PHP 研究所）』



下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください

新しい女先生をどうやってからかおうか、学校への道すがらささやき合う子どもたちのかたわらを、「おはよう！」というさわやかな声とともに自転車に乗った先生が通り過ぎていきました。



間違い探しの答え：①右上・チョウ ②左端・靴 ③右端・指先 ④右端・モグラ ⑤真ん中・船



よかったら、よんでみてね



『怪談5分間の恐怖 うしろを歩く者』

中村 まさみ・作（金の星社）

ある企画の立案を受け、打ち合わせをしに、池袋の某所へおもむいた。打ち合わせは、思った以上に盛り上がり、気づいたときには終電だった。ぎりぎりセーフで最寄り駅に降り立った私は、駅周辺の喧騒をぬけ、住宅街へと入っていった。その時、背後から・・・

『なんともなんともいったじゃないかっ！』とどなり声が聞こえたので、ふりかえてみると、20メートルほど後ろに女の人が歩いていた・・・。



『夢をつかもう ノーベル賞感動物語』

高橋うらら・著（集英社みらい文庫）

毎年秋にノーベル賞の受賞者が発表されると、テレビや新聞で大きく取り上げられます。ノーベル賞は世界的に有名な栄誉ある賞です。

きっと受賞者は、若い時から高い目標をかかげ、つらいことにも負けずに自分の道を歩みつづけていったのでしょう。しかし、どんなに立派な受賞者でも、必ずだれかの助けがあって偉業を成し遂げています。つまり、多くの人の力が合わさり、科学や文明は進歩してきたのです。

ばっちゃん

～子どもたちの居場所、広島のマザー・テレサ～



『ばっちゃん～子どもたちの居場所。広島のマザー・テレサ～』

伊集院 要・作（扶桑社）

「大人は信用できない」と口をそろえる子どもたちが、なぜ「ばっちゃんだけは信用できる」と言うのか。行き場のない子どもたちのために、40年間にわたり、自宅を開放し、毎日無償で手料理を振る舞い続けた『ばっちゃん』こと中本忠子さん。

作者の伊集院さんは、広島にNHKディレクターとして赴任し、世間では「不良」と言われてきている子どもたちが、中本さんと関わることで、表情が和らぎ、更正していくのを目の当たりにします。



『恐怖からのドンデン話』

オールナイトニッポン・編（学研）

かつて、日本の子ども達を恐怖と笑い（ギャグ）の渦に巻き込んだ小話が収録されています。一人で読んでも楽しめるが、誰かに話せば、もっと楽しめるはずです。

本書の朗読をされた龍田さんに話す時のポイントをお伺いすると、しっかり計画を練って、どこがその話のポイントなのか把握しておくことが大切とおっしゃっています。スピーチする時に役立つかも・・・。